

この児童発達支援自己評価表は、児童発達支援センター又は児童発達支援事業所の職員の方に、事業所の自己評価をしていただくものです。
「はい」、「いいえ」のどちらかに「○」を記入するとともに、「工夫している点」、「課題や改善すべき点」等について記入してください。

(回答/職員 9名・児童発達支援管理責任者 1名)

		チェック項目	はい	いいえ	分からない	未記入	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	10				基準に沿って適切なスペースの確保をしています。クラス内の配置についても、パーティションや移動式スケジュールを活用し、限られたスペースをより適切に活かせるようにしています。
	2	職員の配置数は適切であるか	10				10:00～16:00の基本療育の時間帯は、基準の配置数を超えて職員を配置しています。早出・居残りの時間帯にも既定の人数以上の配置をし、しっかりと子どもの様子を見守ることができる体制を作っています。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	10				子どもが“見て分かる”を基本に、部屋の構造化や視覚提示など必要な手立てをしています。また、子ども一人一人の発達に合わせた伝え方を工夫し、子どもが“自分で納得して自分で行動する”力を引き出せるよう関わっています。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	10				生活空間や活動空間、トイレ等の衛生空間など、子どもたちが過ごす場所は毎日掃除をして清潔を保っています。また、子どもにとって活動しやすい場所づくりを考え、活動内容に応じた空間のレイアウトを考えています。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	10				職員間で目標を共有し、定期的に振り返りができる機会を作っています。ただ、日々の業務のなかで話し合いの時間を持つことが難しい場合があり、定期的な振り返りの時間をつくっていけるよう今後も業務時間内の取り組みの工夫をしていきたいです。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	10				年1回、保護者向けの評価表への記入の協力をお願いしています。評価表を受けて保護者の意向や要望等を把握し、必要に応じて業務の改善につなげられるよう努めています。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	10				法人のホームページにて公開しています。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	10				定期的に外部のスーパーバイザーを招いて療育の様子を見てもらい、子ども一人一人に合わせた環境の設定や支援内容についてアドバイスをもらっています。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	10				職員それぞれに必要な専門性や支援力の向上を目的として年間を通した研修への参加を計画しています。
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	10				定期的にあセスメントをし、子どもの発達の様子を適切に分析し、子どもや保護者の希望に沿った計画の作成を心がけています。
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	10				共通のアセスメントツールを活用し、子ども一人一人の発達の様子を把握しています。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	9		1		児童発達支援ガイドラインに沿った支援計画を作成しています。

適切な支援の提供	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	10			支援計画を意識しながら子どもとの関わりが持てるよう日々の記録用紙には子ども一人一人の計画内容を記載し、それに沿って毎回記録をしています。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っているか	10			主担任を中心に各クラスで相談しながら活動プログラムの組み立てをしています。また、季節の行事に合わせた活動プログラムはクラスを分けずにあゆみ全体で企画しています。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	10			曜日によって集団の構成が変わるので、それぞれの年齢や発達に合わせた活動プログラムの設定をしています。また、1週間単位、もしくは1か月単位での活動プログラムを考え、定期的に変化をつけられるようにしています。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか	10			個別での活動や、小人数でのSSTプログラムや活動の設定、クラス全体での集団活動など、子どもの年齢や発達に合わせた取り組みを支援計画に反映させています。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	10			毎日の朝の会で必要な情報を共有し、その日の活動や支援の内容、職員の役割分担を確認しています。変更が必要なことがあれば主担任を中心に全体でその都度調整をしています。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	9	1		夕の会でその日の様子を報告し、全体での共有が必要な事柄を確認しています。支援の振り返りや気づいた点、保護者とのやりとりなど、全体での共有が必要なことは子どもの記録や各クラスの業務日誌に記載し、翌日の朝に再度確認ができるようにしています。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	10			支援計画に基づいて記録をとり、各クラスで支援の検証をしながら見直しが必要なことはすぐに改善できるよう取り組んでいます。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	10			子どもの発達に応じて定期的に見直しをしながら支援計画の作成をしています。
関係機関や保護者と	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	10			主に児童発達支援管理責任者が参加しています。可能であれば各クラスの担当職員も一緒に参加し、情報の共有をしています。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	9	1		必要に応じて連携を取りながら支援をしています。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	3	1	6	現在、日常的に医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子どもの利用はありません。利用があった時には、関係機関と連携を取りながら支援をしようと考えています。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	3	1	6	現在、日常的に医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子どもの利用はありません。利用があった時には、関係機関と連携を取りながら支援をしようと考えています。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	10			保育園や幼稚園等への意向があった場合は引き継ぎシートを作成して保護者に渡し、可能であれば支援会等への参加をしています。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	10			年長児には引き継ぎシートを作成して保護者に渡ししており、可能であれば支援会に参加をしています。すべての子どもの支援会に参加することはできておらず、今後も小学校や特別支援学校(小学部)との間で情報共有をし、子どもの途切れない支援へつなげられるよう努力していきたいと考えています。

の 連 携	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	10				専門機関が開催する研修に参加し、職員全体の支援力の向上に努めています。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	2	6	1	1	保育園や幼稚園とあゆみの並行通園をしている子どもが多く、あゆみとして他の保育園や幼稚園と一緒に活動をする機会は作っていません。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等積極的に参加しているか	8	1		1	参加しています。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	10				連絡帳やお迎え時にその日の子どもの様子を伝えていきます。また、送迎時に家庭での様子を聞き、必要に応じてゆっくりと話を聞く時間をつくりながら子どもの発達の状況や保護者の困りごとなどを共有し、共通理解を持てるように努めています。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っているか	10				今年度は12月～2月にかけて全3回の保護者向けの子育て講座を開催し、18名の保護者が参加しました。来年度も継続して開催していこうと考えています。
保 護 者 へ の 説 明 責 任 等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	10				契約時にできる限りわかりやすく説明をしています。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	10				支援計画見直し時には毎回面談をし、子どもの発達に合わせた支援のねらいを丁寧に説明し、保護者の同意を得たうえで支援計画の作成をしています。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	10				連絡帳やお迎え時に保護者から何か話があった時には声をかけ、必要であれば個別に時間を取ってもらってゆっくりと話をしています。子育ての悩み等については、“ともに悩み ともに考え”の姿勢で、ペアレントトレーニングの視点も踏まえながら子どもにとってより良い手立てを一緒に見つけていけるよう話をしています。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	10				今年度は9月に保護者と職員との懇親会を開催し、参加した保護者からは「よかった」との感想をいただきました。子育て講座の最後にも、保護者同士で日頃の子育ての悩みや子どもの様子を話せる時間をつくりました。普段聞くことのできない話を聞くことができ、良い時間になったと感じています。来年度も、定期的な開催を計画していきたいと考えています。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	10				子どもや保護者から何か話があった時には、職員間ですぐに共有し、対応しています。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	9	1			今年度は会報としての発行はしていませんが、面談時に個別に写真を見てもらいながらあゆみでの様子を伝えていきます。また、必要な案内や連絡等については随時文書を発行しています。
	38	個人情報の取扱いに十分注意しているか	10				個人のファイルはキャビネットに保管し、持ち出しについては十分な配慮をしています。また、子どもの名前が入ったものを処分する際にはシュレッダーを使用し、外部に出ることがないように注意しています。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	10				子どもや保護者それぞれに合わせた伝え方を心がけています。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	2	7	1		今年度は地域を招いての行事はしていませんが、見学等の受け入れは随時行ってきました。
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	10				月1回、火災・風水害・地震を想定した避難訓練をしています。保護者に向けた訓練等のお知らせは十分にできていないので、今後はあゆみとしての取り組みを発信していきたいと考えています。

非常時等の対応	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	10			月1回の避難訓練では職員がどう動くかを想定した訓練を基本に行い、その日に利用している子どもには訓練の流れを説明して参加してもらっています。避難訓練後は参加した職員全員にアンケートを取り、それをもとに振り返りながら実際に起こった時にどう動くかを具体的に考えて改善しています。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	9		1	利用開始時と年度ごとにアセスメントシートや健康表への記入の協力をお願いし、子どもの状況を確認しています。また、面談時にも健康に配慮の必要な子どもについては、状況の確認をしています。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	9		1	保育園や幼稚園に提出している医師の指示書のコピーをもらい、指示書に基づいた対応をしています。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	10			ヒヤリハットや簡易なけが等を発見した時には、その都度クラス日誌に記録しています。記録した内容は朝夕の会や職員会で共有し、対策を考え改善につなげています。また、保護者への報告もその都度しています。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	10			定期的に虐待に関する研修をし、虐待への意識づくりをしています。また、日頃の子どもの関わりについても、虐待につながるような関わりをしていないか職員間で声をかけあえる体制づくりを心がけています。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	6	3	1	契約時に、身体拘束や虐待についてのあゆみの姿勢を説明しています。また、身体拘束につながるおそれがある行動が見られた場合は、その子がなぜそのような行動をしているのか、行動の背景にどのような思いがあるのかをしっかりとアセスメントをし、身体拘束や虐待につながらない手立てを考えていくことを職員間でも確認しています。現在のところ、身体拘束を行わなければいけない状況になる子どもはいません。今後も、子ども一人一人に丁寧に向き合っていきたいと考えています。